

## 国語科 評価の工夫改善

H26.2.27

評価に対してこのような声を聞きます。



言語活動の充実によって、評価はどのように変えればいいのか？

単元を貫く言語活動を設定したけれど、どのように評価していいかわからないわ。



まとめをどのようにするか、いつも苦勞するな。そのうえ、評価まで気が回らない授業が多いし……。

授業の改善として「言語活動の充実」が求められています。それに伴い、評価に対する悩みの声が多くなってきました。



言語活動の充実を目指した授業を行うことにより、どうしても**活動**に意識がいき、単元のねらいとずれていたり、その場限りの無計画な評価になったりすることがあります。次の3つのポイントに留意して、評価を工夫・改善してきましょう。

## ポイント1

「いつ」「どんな場面で」「何を」「どのくらい」評価するのか明確にします。

単元計画を作成するときに、評価の計画もしっかり立てます。

- **単元で身に付けさせたい力**を明確にし、指導のポイントをしぼります。  
単元計画の評価規準は、指導事項と言語活動を併せた具体的なものにします。

## ポイント2

評価のモデル（イメージ）を単元の始めや毎時間の始めなどに示し、児童生徒が自分の変容を自覚できるようにします。



教師は、指導事項と言語活動から具体化した評価のモデル（イメージ）を児童生徒が分かりやすいように提示します。

- 評価のモデル（イメージ）を示すことにより、単元（授業）の導入と終末の児童生徒自身の変容を実感することができます。  
「話すこと・聞くこと」の場合は、教師が「手本を示す」ことも大切です。

## ポイント3

児童生徒が、「また頑張りたい」「次は、こう頑張る」という次につながる評価を行います。



国語科では、**繰り返し・螺旋的に指導**することが重要です。そのため、評価は単元のゴールではありません。児童生徒の意欲を高めて、次の指導につなげることが重要です。

- 相互評価や自己評価なども取り入れます。  
教師の温かい言葉かけも大切な「評価」です。

評価の一つとして、ぜひ定着確認シートを活用してください。

児童生徒	学習内容の習得状況を把握できます。
教師	指導内容の定着状況を把握できます。